

動物のお医者さん？

by 

4月からこちらの松阪食肉衛生検査所で勤務しています。こちらに転勤になる前は保健所に居たのですが、保健所ではご相談に来られた方とのやり取りでよくこういう会話がありました。私が名刺をお渡しすると、

(来客) 「大変ですね。病院から時間を取って来られて。」

(私) 「???'」

私の名刺には獣医師という言葉が入っています。それでその方には「獣医師 = 臨床で動物の治療をする仕事」というイメージがあり、そのような話が出てきたのだと思います。しかし私は県の職員で公務員です。もちろん動物病院には勤めていません。このような話だけでなく、他にも私が獣医師の資格を持っていると知ると「なぜ動物病院を開業しないの?」とかもよく言われます。

食肉衛生検査所や保健所に勤める我々のような獣医師は公衆衛生獣医師と呼ばれます。上のような話が出てきたときに、会話の相手にはどういう仕事をしているか説明させていただきますが、世間一般に獣医師が公務員として公衆衛生(: 広く地域社会の人々の疾病を予防し、健康を保持・増進させるため、組織的になされる衛生活動)に関わる仕事をしているということはそれほど知られていません。一通り説明した後に「へえ ~、そういう仕事もあるんですね。初めて知りました」とよく言われます。

それでは公衆衛生獣医師は具体的に何をしているのでしょうか? 獣畜(牛、馬、豚、めん羊及び山羊)を解体し市場に流通させるには、その動物の体(肉や内臓等)に病気や異常がないかどうか検査を受けなければなりません。その検査を行うのが「と畜検査員」で、検査員は獣医師の資格を持ったものでしかなれないことが法律で決まっています。ですから日本全国、食肉にされた牛肉や豚肉は獣医師の検査を受けてから市場へ出回っているわけです。この他保健所では狂犬病予防、食品衛生等衛生学の知識に基づいて、感染症等による人の健康への危害防止を図る仕事や、動物愛護といった人と動物との関係を扱う仕事を行っています。

私が初めて保健所に入って上司に言われた言葉の一つに「プロの仕事をしなさい」というのがあります。その言葉を聞いて「プロの仕事」ということについて考えるのですが、そもそも「プロ」とはどのようなものなのでしょう? 「プロ」はプロフェッショナルの略語で、専門家あるいは職業として生計を立てる人のことを言います。世間一般の方がイメージする「プロ」の獣医師は、動物の治療をする専門家かもしれません。ただ獣医師には人と動物の関係を良好につなぐという仕事もあり、それを専門家としてきちんと果たすということが我々公衆衛生獣医師に求められる「プロ」

としての仕事かと思われます。もちろん市民、社会人あるいは「プロ」の公務員としての責務を果たした上での話ですが。



私は小さい頃、「ドリトル先生アフリカゆき」という本が好きでした。ドリトル先生は動物と会話ができ、動物と良好な関係を結び問題を解決していきます。そのような先生への憧れが、私が獣医師を目指した理由の一つでもあります。現在の私は、獣医師の資格は持っていますが、残念ながら動物とは会話できません。ただ人と動物の世界に良好な関係を築くということは現在の仕事の本質と関わり、そのことについてはこれから憧れを具体化していく途中にあります。公衆衛生獣医師はあまり世間一般に知られていませんが、この文章を読んで少しでもその存在を知っていただき、またその中から興味を持っていただければ幸いです。